

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	3年 外国語活動（10月）Let's Try! 1Unit 5 What do you like? 4/4 h
③言語活動の充実を目指した授業づくり	京都市立朱雀第二小学校3年担任 富貴 浩子

テキストには載っていない！Who am I? 先生クイズ大会 成功へのアプローチ

相手に伝わるように工夫しながら、好きな色、食べ物、スポーツを尋ね合う活動をするのがこの単元のねらいです。そこで、ゴールの活動として「Who am I?先生クイズ大会」を設定しました。

時間外の活動と授業をうまく組み合わせる

学年全体の取組とし、休み時間を使って、校内の教員に協力を得て好きなものインタビューに取り組みました。できるだけ多くの教員にインタビューすることがクイズに正解する近道となるわけです。校内で共通理解のもと進めたことで、一人の子どもが平均18人（ほぼ全員）にインタビューすることができました。やり取りは、回を重ねるごとにスムーズになっていきました。授業時間には含まれませんが、大切な仕込みの時間と言えます。



インタビュー、事前の根回しが大切。そのわけは？

指導者が事前に、インタビューの答えを把握しておくことで、クイズ大会までにその表現に触れておくことができます。返ってきた答えの意味が分からない、とならないようにするためです。また、ねらいや使用表現例、期間の他、「どの子にも同じ答えを返して下さい」「時間があれば Do you like～?などと聞き返してコミュニケーションをふくらませて下さい」などインタビューの受け方も伝えます。指導者は子どものワークシートから進捗をチェックし、インタビューが進みにくい子どもに立ち会ったり、声かけをしたりして、全員が無事、インタビューを終えることができました。

子どもを変える、授業を変える声かけの工夫



【授業前】指導者が「前時の振り返りの先生メッセージ、読んでおいてね」と声をかけると、皆いっせいに振り返りパスポートを開いて読み始めます。本時を迎えるにあたって、子ども一人ひとりにアドバイスや励まし、気を付ける点などを記しています。

【中間評価】ロ々に「楽しかった」と前半の活動を振り返る子どもたち。指導者はさらに「どんなことが楽しかった？」と尋ね、「ヒントをたくさんもらえた」「答えを言う前にBGMをつけました。ドキドキするから」など出題者と回答者の両方の立場からの意見を引き出し、「楽しさのひみつ」として整理しました。後半の活動前には「自分のめあてを1つ決めてやってみよう」と声かけして始めました。

子どもの振り返りより

- ・効果音で相手をドキドキさせることができたのでよかった。相手をえがおにさせることができた。
- ・What floor?と聞いたらCさんがTwo(second) floor.と言って指でもあらわしてくれました。
- ・ときどきした気持ちにするためにReally?と言ってから答えを言いました。

指導助言・アドバイスコーナー

本実践から、授業は「1コマ」だけで成り立つものではないということがよく理解できます。1コマの授業が成立し、どの子どもが、温かい学級の雰囲気の中で目標を達成するためには、授業への準備が必要なことは言うまでもありませんが、「授業準備」には、教材研究だけでなく、授業内外での日常的な子供への温かい声かけ、そして日頃互いの1コマ1コマの授業を支える「学校チーム力」も含まれます。また、Let's Try!を目の前の子供に合うようアレンジすることが大切であることもわかります。アレンジするためには、教材研究に加えて、目の前の子供理解が欠かせません。本実践から、わくわくしながらインタビューする富貴学級の子供達に、温かいまなざしで応答する教職員の姿が目につかびます。（直山木綿子 文部科学省初等中等教育局）